

# 株式会社 藤チャイルド 令和7年度自己評価結果

## <企業理念>

藤チャイルドは、関わる全ての人に愛情と信頼を持ち、人とのつながりを大切にします。

## <保育方針>

愛情を持って接し、自分を大切に作る心、人を大切に作る心を育みます。

## <保育目標>

- 1) 思いやりのある子
- 2) 自分で考え行動できる子
- 3) 遊び込める子

## ■評価項目

	今年度の振り返り	評価・反省 課題
遊びの充実について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びが単調にならないよう、同じ玩具でも環境や組み合わせを変えたり、ルールを設けて展開していけるように工夫した。</li> <li>・子どもたちが興味を持った玩具を、いつでも子どもから手にして遊べるような環境づくり（配置）を一年間でできたことが良かった。</li> <li>・子どもが何に関心・興味を持っているのか観察し、可能な限り子どもの自己選択を大切にしてきました。発達段階に合わせて、幼児クラスでは子ども同士が適切に刺激し合える集団規模を工夫し、乳児クラスでは応答的な関わりを意識しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの五感を発達させる環境設定の部分が保育に欠けていると感じた。単発だけでなく、持続していくことの大切さが必要だと思った。</li> <li>・戸外あそびや室内あそびの内容がワンパターンになっているので、玩具の入れ替えや公園での遊び方を話し合い、さらに楽しめる工夫をした方が良いと思う。</li> <li>・パズルやブロックの種類が3か月毎くらいに新しいものにローテーションされると、より関心を深められるのではないかと思う。（園ごとに回すなど）</li> </ul>
質の向上のために 保育や食育のため	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心や身体の成長を感じ取りながら、一人ひとりが自分の思いを発揮できるように寄り添った保育を意識しました。</li> <li>・月齢にとらわれすぎず、個々の発達や感じていることに寄り添い、乳児期の土台をしっかりとつくれたらと意識した。</li> <li>・五感で楽しめるようねらいをおいた。乳児でもきゅうりの塩もみなど、簡単な調理体験ができたらと思った。</li> <li>・小規模において、今年度からの給食参観は良い機会であったと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児でも、個々の発達や成長段階において、排泄（おまるに座る）、手洗いは行えると感じた。しようとする姿・できることができない環境になっていると感じた。</li> <li>・乳児の保育なのに行事が多いと思う。椅子に長時間座って見学する姿も多い。</li> <li>・0.1歳児は見学時間が長すぎると飽きてくるため、切り上げて散歩なり室内遊びに移行するなりその時の判断が必要であると感じた。</li> </ul>
衛生面について 安全面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いやトイレ後の衛生習慣など、日々の生活の中で清潔に過ごす大切さを伝えながら、子どもが自分で意識できるように関わることを心掛けた。</li> <li>・感染症が流行る時期に換気や消毒を早めに行うよう心掛けた。前年度の子どもたちと比べ感染症がクラスで流行ることもなく、咳鼻水の症状の広がりを抑えることが出来た。</li> <li>・保育者同士でも声を掛け合い見守りながら、死角を作らないように努めました。転倒や衝突など、事故防止のために配置を変えたり、子どもたちにも危険を伝えていました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食セットの入れ物を拭くタオルについて、他の雑巾などと同じ場所で管理されているので、調乳室管理でも良いと感じた。</li> <li>・安全についての慎重さが保育士個人個人によって差があり、子どもへの声掛けの統一が難しい場面もあった。</li> <li>・個々で研修をうけたりする機会はあったが、それを共有する場面があると良かったと思う。（それぞれ感じ方や気になるポイントが違うだろうし。）</li> </ul>
チームづくりにおける 組織の連携について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育はチームだということを伝え、それには同じ方向で価値観を合わせていくことから、園の理念・方針・保育内容を確認できる機会を職員会議の際に設けることが出来た。</li> <li>・リーダーが出来たことで行事が短縮されてよかった。聞きたいことを全て主任へ聞くのではなく、各リーダーに聞いて動くことが出来た。</li> <li>・調理員同士ではこまめに声を掛け合いながら情報共有をしています。気持ちよく働ける環境づくりを意識しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々のやり方や考えが違うのは当たり前のことだが、チームとしてそれを共有したりどこまで揃えるかなど、しっかり話し合うことでチーム力が上がると思う。</li> <li>・月一の会議以外で集まって話し合いをする機会を持つことが難しかったので、その方法について考えていきたい。</li> <li>・安全衛生委員会が月一回あるように、3か月や季節ごとに食育委員会があると「こんな食育が子どもの成長を感じた。」「こんな反応があったなど」語り合い、互いの園が影響を与えあうのではないかと考えています。</li> </ul>
かかわりや地域への 保護者や地域への	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の方と駐車場や玄関先でお会いする場面では、当たり前のことですがあいさつを大切にしています。</li> <li>・近くの老人ホームへの訪問を何度かさせてもらって、緊張しながらも関わろうとする子どもたちの姿がとてもよかった。0歳児は泣く子が多かったので控えても良いかなと思った。</li> <li>・施設の交流がはじまり良いことだと思う。0.1歳は不安になる気持ちの方が大きいので2歳児だけでも良いのかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮が必要な子どもの園での様子を伝えるときに、ポジティブな内容でも保護者からの反応が思っていたのと違うことがあった。発達のための個別支援でも”周りとは違う”ことをマイナスに捉えられてしまうことがあるので、伝え方や伝えるタイミングを考慮していくことを学んだ。</li> <li>・スーパーへの買い物などを年長児だけではなく幼児クラスでも取り入れることで地域への繋がりや社会経験が広がるのではないかと考える。</li> <li>・社会情勢の変化ニーズに対応する力を養うためにも、地域の特性や身近にある生活環境に関心を深め関わりを持たなければならないと思った。</li> </ul>

## ■財務状況

監査法人の監査を受け妥当であると認められた。